

日 時：平成24年7月12日（木）18：30～20：30
場 所：総合保健福祉センターりんくる 交流活動室
参加者：40名

【 当 日 の 内 容 】

18：30

◆ 開会

18：30～18：35

- ◆ 情報取得手段についての情報提供（事務局／石狩市 総務部）
 - ・石狩市メール配信サービス、緊急速報メール
 - ・石狩市の情報取得手段

18：35～18：45

- ◆ 本日の進め方の説明（事務局／㈱ドーコン）
 - ・グループ別意見交換の進め方

18：45～18：50

- ◆ 「防災に関するアンケート」の結果報告（事務局／㈱ドーコン）
 - ・地区別集計結果の概要報告

18：50～20：05

- ◆ グループ別意見交換
 - ・前回の意見交換結果の確認
 - ・いろいろな観点での「日頃の備え」を検討

20：05～20：30

- ◆ グループ別意見の発表
 - ・各グループ代表者から発表

20：30

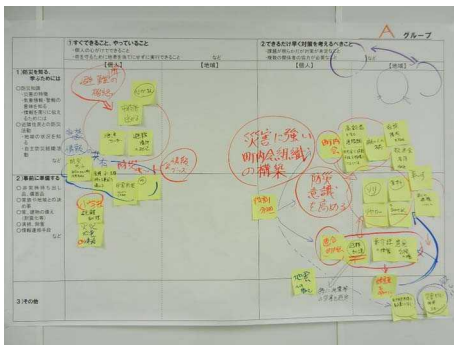
◆ 閉会



◆グループ別意見の概要

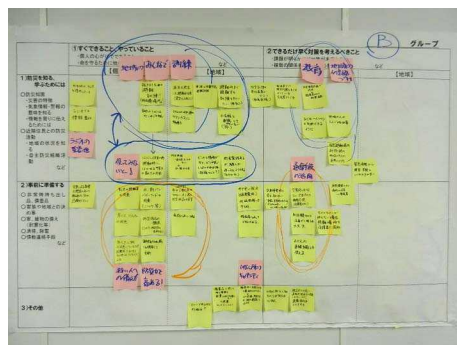
Aグループ（7名）

- ・避難所の確認を行う、冷蔵庫に備えてある緊急情報キットと一緒に「どこに逃げるか」「何を持って逃げるか」などのメモを入れておくなど、日頃から各家庭で災害に備えることが重要である。
- ・火災を想定した避難訓練は小学校などで行われている。
- ・災害に強い町内会組織の構築のためには、個人情報の取得が必要であるが、プライバシーの問題などがある。
- ・地震等の災害を想定して、連合町内会単位での避難訓練を行い、防災意識を高める必要がある。
- ・体の不自由な人を助けるためにリヤカー・そりなどを町内会で備える必要がある。



Bグループ（7名）

- ・様々なタイプの災害を想定した訓練を行う必要がある。
- ・衛星電話など、実際に使ってみないと使い方が分からないものを訓練で体験しておく必要がある。
- ・乳幼児など弱い立場の人々へも考慮した防災用品の確保（ミルクなど）が必要である。
- ・地域の人々の意識づけ・防災教育が重要である。
- ・通信手段として、メールシステムの活用を練習しておく必要がある。
- ・避難場所に、どのくらいの備蓄があるかなど確認しておく必要がある。



Cグループ（8名）

- ・住宅密集地で住民の多くが高齢者であることから、要援護者対策が必要である。
- ・民生委員を通じて作成された高齢者の名簿があるが、実際には活用できない部分が多く、名簿として作り直す必要がある。
- ・今までは火災・AED訓練など小規模な訓練しか行っていないが、大きな災害を想定した訓練を地域ごとに行う必要がある。
- ・各家庭では非常持ち出しと備品（食料・衣類）を分ける必要がある。
- ・電話など情報連絡手段の断絶に備えて、各避難所に機器の設置が必要である。



Dグループ：（7名）

- ・地域として何ができるか考えると、人と人とのつながりや結びつきによる「共助」が大切であると思う。
- ・現状では、隣近所の情報や避難場所などをきちんと把握していない状況にある。
- ・個人情報保護法の壁はあるが、高齢者世帯などの名簿を作成し、備蓄状況なども含めて、若い人も含めて地域できちんと情報を共有することが必要である。
- ・震災体験者による講演会の開催なども必要ではないか。



Eグループ：（5名）

- ・町内会活動に普段参加しない方（防災意識が低い人）を含めて、防災意識を地域全体で高めていくことが大切だと思う。
- ・東日本大震災で実際に起こったことを忘れないよう伝承していくことが重要だと思う。
- ・災害時には「自助」「共助」が不可欠。日頃からの良好な近所付き合いが重要だと思う。
- ・インターネットを見たり、メール配信サービスのアドレス登録は、個人でもすぐできる。
- ・町内会便りで避難場所を周知したり、集会時にみんなでアドレス登録することも有効ではないか。
- ・災害時に家族の居場所を確認できるよう、普段から確認方法を家族で話し合う必要がある。
- ・安全な避難場所はどこなのか、きちんと把握しておく必要がある。



Fグループ：（6名）

- ・保育園や中学校では、既に子どもへの避難訓練や防災教育の取り組みを行っている。
- ・自主防災組織による防災訓練の実施を行っているが、参加する人が限られているのが課題。
- ・災害時の「自助」に備えるために、災害予測や被害状況予測、さらに過去に被災した災害などの情報を発信し、各個人に対しての防災教育をしていくべきだと思う。
- ・災害時における、避難所での指示の出し方や動き方、さらに避難所として施設を開設する判断基準もきちんと把握していないのは課題である。
- ・避難時に備蓄品を持って逃げるのは難しいので、個人の備蓄品は町内会や学校など避難所の場所を借りて保管できないか。



	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと	
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】
1) 知る 学ぶ	<p>【避難所の確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心がまえ ・市役所に逃げる ・海洋センター <p>【防災キット&情報グッズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災キット。自分の避難場所、用意するもの。 ・食糧、水、衣類、持てる範囲を備える。 ・非常用袋。カンパン、しきもの。 ・水 <p>・小学校、避難訓練</p> <p>・火災、地震、津波</p>			<p>【災害に強い町内会組織の構築】</p> <p>【防災意識を高める】</p> <p>【役割分担】</p> <p>【町内会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を含む連絡網 ・町内会で役割分担を明確にしておくべき。 ・病気の名前 ・家族構成を知る。 ・敬老会名簿活用
2) 準備 する			<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担 ・連合町内会 ・地震への備え 	<p>【町内会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソリ ・リヤカー ・食料 ・助ける人 ・車いす ・車での避難について ・要介護の練習 <p>【連合町内会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 ・意見交換の場 ・課題を明確に
3) その他				<ul style="list-style-type: none"> ・全戸防災無線を設置してほしい。 ・災害想定、規模大きい

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと	
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】
1) 知る 学ぶ	<p>【ラジオの重要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出時はラジオを携帯している。 ・ラジオでの情報収集 <p>【地域の人みんなで訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抜き打ちの避難訓練！！ ・朝夕の職員少ない中での対応 <p>【使ってみないと!】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はだし保育の為の避難時にはかせる厚手の靴下の用意 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の参加者数が少ない。(毎年実施) <p>【地域の人みんなで訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波を想定した避難訓練(震災をふまえて) ・隣の4F建てのケアハウスに移動 ・津波と地震想定での避難訓練 ・避難所まで避難する訓練を行ないたい。(保育園) ・小学校と連携して行ないたい。(3F) <p>【使ってみないと!】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災無線。一度も使った事が無い。→訓練が必要 ・どこから情報がきて、どう対応してよいかわからない。(教頭として?) ・衛星電話あるが、角度とか使い方にコツがある。(毎月15日) 	<p>【教育、地域の人意識付け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会では、防災訓練を年2回やっている。消防署がくる。 ・防災教育計画の作成→安全教育からの転換、発展 ・子供一人一人が判断できるように。 ・地域の人援助も必要 ・指定避難場所まで行く時の地域の方との連携のとり方 	<p>・緊急情報メール練習、実験をしておいた方が良い。</p>
2) 準備 する	<ul style="list-style-type: none"> ・災害による影響を想定において施設内、外の点検をしていく。 <p>【弱い人への備えが防災力を高める!】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の避難車の用意 ・車イス、ストレッチャーの用意 ・持ち出し物は用意していますが、医療用であります。その他はラジオ付きランプ2台 ・水、乾パン、ベビーフードの用意(ミルク等) ・防災用品の確保(ミルク、防災ずきん、食料など) ・期限切れ前に使用して更新 	<p>【弱い人への備えが防災力を高める!】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(町内会)市から配布のリュック、オノ等の防災用品の保管 ・会館に置いてある。 ・少量の軽油(自家発電用)何時間もつか不明。 ・時間帯によって対応かわる。 	<p>【通信手段の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画停電時の姿を知りたい。(実際の災害時のヒントとなるかもしれない)トイレ、水周り→動く場所 ・災害時におけるスムーズな市との情報交換(保護者とも) ・別回線なので混雑時にも大丈夫 ・普段の連絡網にも使える。 ・ライフラインが使えない場合、避難場所を保護者に周知 ・本部機能を持つ場所への不安→警察署 	
3) その他		<p>【避難所のキャパシティ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストーブあるけど灯油は? ・備蓄品に関して。物(種類)、数量(どれだけの人数の分)の把握→1Fでいいのか? ・施設内に収容できる人数がわからない。→どう把握し、想定するか、誰が避難してくるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所としての機能が充分か心配 ・緑苑台には高い建物が緑苑台小学校しかないので避難場所が狭すぎる。 	

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと	
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】
1) 知る 学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・災害事前情報に対し避難準備を早めに行なう事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の「かわらばん」で携帯、パソコンのメールで「メール配信サービス」や「緊急速報メール」を受信できる事を知らせる。 <p>【訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会役員として災害が発生したと想定して「個人として、防災の役員として」行動する上での問題点を考える機会を「防災図上訓練」を行なっている。 ・お隣の双葉小学校へ津波想定訓練として年2回避難している。 ・自主防災組織を実効あるものに（防災に関する経験、知識のある方をリーダーに！） <p>【要援護者対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の声かけを行い町内の役員に連絡をとるようにする。 ・災害要援護者の名簿の整備が必要である。（現行のものはモシが多い） ・高齢者（単身、夫婦）身障者の曜日別避難マップの作成 <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">・北陽通りに全員が集合し、誘導班の指示に従う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・年に一、二度防災訓練、講習会を開催し備えと意識向上を図る。
2) 準備 する	<p>【持ち出し品・備蓄品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅内で用意。照明器具（LED、手回し発電式等） ・家庭において非常時持ち出し品と（貴重品、食料、薬等）、備蓄品（食品、水を）に分けて備えている。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">・エネルギー源の確保。照明と情報の確保。</p>	<p>【持ち出し品・備蓄品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の備蓄としては、食料の他に毛布やふとんなども集めています。（保護者の方々がお迎えに来るまで）冬が怖い。 ・防災ラジオ電池式（太陽電池か手回し発電の出来る物） ・防災庫内の機材の全チェック ・市メール配信についてPRし、町内会役員が受信できるシステムを構築する。 <ul style="list-style-type: none"> ・冬期間の道路確保のためボランティアによる除雪作業を行なっている。 ・災害発生時に町内会を広報車で避難誘導する 		<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの整備。石狩市としてのマニュアルとの関連化 <p>【施設の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報連絡システムの充実が必要。町内会担当者と避難場所に機器設置が必要。
3) その他				

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと	
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】
1) 知る 学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・災害（地震、津波）の意識低い ・災害のみ（名前、年齢）90% ・家族構成など ・若い人の協力…。 ・あなたの危険！ ・情報があることを知る！ ・情報が少ない（プライバシー） ・どのぐらいの災害規模？ ・逃げ方ルート ・介護を受けている人の連絡先 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰が誰の担当か（隣組） ・両隣の住人を知る。名簿 ・町内会で防災名簿 ・興味があることで ・町内会のお祭り ・楽しませる工夫 ・インフォーマルな活動 ・交流会（小さいグループ） ・座談会（4年に1回） ・老人会の名簿 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人がほしい支援内容 ・プライバシーにさらされない情報 ・入居した時に名簿 ・よりリアルな訓練 ・消防の方の話 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会 ・体験談を聞く ・学校との連携
2) 準備 する	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄庫 ・場所の確認 ・車、移動 ・リヤカー、ソリ ・暖房 ・毛布 ・ポータブルの石油ストーブ ・食 ・3日分の備蓄 	<ul style="list-style-type: none"> ・人とのつながり <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会のメリット ・何か役割あたえる </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵の管理 ・壊してもよいという約束 	<ul style="list-style-type: none"> ・防風林で減水 ・もっとリアルなシュミレーション
3) その他		<ul style="list-style-type: none"> ・広報 		

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと	
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】
1) 知る 学ぶ	<p>【災害知識、気象情報の入手】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こまめにインターネット、気象庁のページ“知識、情報満載” ・メール配信サービスの登録をする！すすめる！ ・市のホームページを見るようにしている。ときどき… ・PC（携帯）による情報入手、（家族の連絡方法、避難場所） <p>【家族の居場所の確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日はどこに居るのか居場所の把握！ ・家族の連絡先を家のわかるところに明記する。（昼間家に母が1人なので） 	<p>【避難場所、メールアドレスの広報（周知）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会等でみんなで登録 ・町内会便りで避難場所を年度当初連絡（確認のため）数回するといいいのでは？（毎月発行しているの） <p>【防災訓練の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会（各自治会）での避難訓練、年に2度くらい（顔をおぼえる）「確実に実施する」 ・防災無線きこえるか？テスト 	<p>【災害経験の伝承】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3.11を忘れない 	<p>【情報伝達整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーカーによる情報伝達、隣人の安全確認 <p>【災害時要援護者の把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会、弱者（高齢者、子供）の把握⇔個人情報？ <p>【防災組織の機能、確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災組織があっても昼間機能するか確認する必要… <p>【個人情報難しい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が実際に住んでいるのか確認（にれのきでは確認中）。町内会に申し出ている要援護者以外に声かけだけでもしてほしい人がいないのか。 <p>【隣接町内会の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所ごとの訓練、訓練前の確認、避難所に集まる各防災組織のつながり ・冬期の除雪はいままでどおりで良いのか？→費用？雪害
2) 準備 する	<p>【非常持ち出し品の準備、リスト作成、持ち出し袋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだやっていないですが、非常時持ち出し品の我が家に合ったリスト作りと持ち出し袋の作成 	<p>【防災倉庫点検、充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害用物品の確認、点検 ・各町内会にある災害用倉庫を避難場所に集めて内容を見直し充実を図る。 ・防災の備蓄品の確認（町内会清掃の時等） 	<p>【家屋の耐震化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家屋の耐震化。長期避難場所の確保（確認） 	<p>【災害に強いまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に強い街づくり。新たな想定を基にした対策 <p>【防災教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性に応じた防災教育の充実。小さい頃から。
3) その他	<p>【避難場所の確認、安全な場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な避難場所は？東北では避難場所で多くの人が死んでいる ・3、4階の建物の屋上は安全なのか 		<p>【防災意識が低い人の意識付け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に対する意識付け？不参加の町内会をどう参加させるのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所の設定（人工的なものか）

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと	
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】
1) 知る 学ぶ	【情報】 ・枕元に携帯電話を置いている。→すぐに確認	【避難訓練】 ・石狩市のテキスト防災教育。考えられる災害。地震、水害、火災、津波	【行政の支援】 ・自分の建物の耐震性能がわからない。 ・自助判断、知識（学習）具体的過去の事例、現在の想定 【情報に対する判断】 ・警報、情報に対する動きの確認→指示は？（避難勧告、避難指示）判断。 ・避難所訓練、机上訓練でも必要→何人くらいが来るか。	【市民目線のロードマップ】 ・行政の防災マップを基本に自助、共助の独自の備えを検討したい。 ・市からの避難の為にスピーカーでの情報 ・市内に海拔指示の設置用意があるか。 【周りの把握】 ・避難困難者の把握 ・隣近所の弱者への避難誘導（災害後）
2) 準備 する	【個人の備蓄】 ・非常食	【避難所の備蓄】 ・避難場所の備蓄品の量。（花川北中では？）	【自助の備え】 ・自分で地域の人に助けてもらうようお願いする。 ・自分がどこに逃げるか周りに言う。 ・町内会の集まりに参加しない。 ・家族、自助の精神で災害に対する備えとすべき。 ・避難指示が出たら出来るだけ遠くへ逃げる。	【地域の備蓄】 ・非常時の備蓄品を避難所で保管してもらうことは難しい？（オムツ、食品、ミルク等） ・停電の際の備え。何が出来て何が出来ないのか。水は？
3) その他				